

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	みやぎ けん	市町村名	みやぎ し	地区名	みやぎ し ちゆうしん し が い ち ゅ く	面積	340 ha
計画期間	平成 18 年度	～	平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度	～	平成 22 年度

目標
 ～多様な都市生活を享受する都心として、また南九州の中核都市として高次都市機能を有した賑わいある中心市街地形成による魅力と潤いのある交流拠点都市の実現～

大目標：

目標1	都市機能の高質化と良好な都市景観の形成および回遊性の向上により、中心市街地の賑わいを創出する。
目標2	中心商業地全体での情報発信やイベント開催などソフト的取組みを推進し、商業の活性化を目指す。
目標3	安全な歩行空間の確保など安全・安心で快適な都心居住環境の向上を目指す。
目標4	中心市街地へのアクセス向上、駐車場の利便性向上、安全で快適な歩行者・自転車交通環境の整備など中心市街地の活力を支える交通体系の形成を目指す。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- 中心市街地地区は宮崎市民の生活の中心であるとともに、宮崎県の広域的な行政・経済・文化・情報等の都市機能の中心として発展を遂げてきた地区であるが、近年のモータリゼーションの進行やそれに伴う大型住宅団地、大規模店舗の郊外立地、居住人口の減少、高齢化等の要因により本地区の活力が低下しており、その再生が急務となっている。
- こうした状況の中、中心市街地における市街地の整備改善及び商業等の活性化の一体的推進を図るため、平成10年度には『夢を育むみんなの街』をコンセプトとした宮崎市中心市街地活性化基本計画（平成11年度には地区別計画）を策定した。
- 平成16年9月に実施した市民アンケートでは、中心市街地の活力が市の盛衰に関わることや宮崎市のイメージ形成等の観点から、中心市街地の活性化を「必要」とする回答が9割近くを占めている。
- 当地区ではまちづくり団体が市民参加のまちづくりの取組みを行っており、平成16年度からは通りの植栽活動やイベントを開催するなど、まちづくりの気運が盛り上がっている。
- 平成16年12月8日には、中心市街地活性化プロジェクト『みやぎ太陽都心構想』が地域再生計画として認定された。
 講じようとする支援措置： まちづくり交付金の創設 / 映画ロケ、イベント等及びカーレースに伴う道路使用許可の円滑化 / 道路占用許可の弾力化（オープンカフェ等）
- 中心市街地活性化基本計画に関しては、郊外部での大規模商業施設立地等、策定当時と中心市街地を取り巻く環境が大きく変化していることから、平成18年度に計画を見直した。

課題

まちづくりの経緯及び現況を踏まえ、都市機能の高質化と安全・快適な都市空間創出による中心市街地の活性化が最大かつ喫緊の課題である。

- 中心市街地内での賑わい創出のため、人・モノ・情報などの交流施設や、住民・来訪者が憩える場の整備を図り、人が集まる場所や仕掛けづくりを行う必要がある。
- 中心となる商業機能を都市の様々な機能全体の中で位置づけ、商業機能とその他の都市機能を有機的に結びつける。その上で、駐車場をはじめ商業基盤の整備改善を図るとともに、多彩なソフト事業の展開により商業活動を活性化していく必要がある。
- 中心市街地活性化にとっては、来訪者の増大とともに、地域住民の活力向上が不可欠である。このため、高齢社会や環境負荷軽減、安全・安心なまちづくり等への配慮により定住魅力の向上を図り、地域コミュニティの再生、商業の活性化につなげていく必要がある。
- 中心市街地への円滑な交通アクセス確保、及び地区内移動の円滑化・快適性向上など、交通環境の改善を図る必要がある。

将来ビジョン（中長期）

- 第3次宮崎総合計画では、中心市街地地区は商業業務地における高次な都市機能の充実や潤いのある都心居住環境の整備を推進し、中心市街地にふさわしい都市環境の整備を図る地区として位置付けられている。
- 宮崎都市計画マスタープランでは、中心市街地の活力・魅力づくりのため、高次商業・業務機能や情報機能の充実を図るとともに、良好な都市景観の形成、あらゆる世代の人々が交流できる場の形成や地域文化の振興、都心居住の促進、都市防災機能の強化などが基本方針として設定されている。
- 中心市街地活性化基本計画では、コンセプトとして『夢を育むみんなの街』＝「いろいろな人が様々な目的（＝夢）をもって中心市街地を訪れ、思い思いの時間を過ごすことができる（＝育む）みんなにとって必要不可欠な場所として在り続ける」を掲げ、「中心商業機能の充実」、「都市機能の充実・高質化」、「快適な居住環境の形成」、「活力を支える交通体系の形成」を基本目標として設定している。（平成18年度見直し予定）
- 昭和59年に3つの市民運動を提唱し、『まちに緑と花をふやす運動』、『大淀川をきれいにする運動』、『明日をにやうこどもたちを育てる運動』を推進している。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
自転車・歩行者通行量	人/12h	当地区内の主要商店街の自転車及び歩行者の通行量	商業の魅力や街の快適性、都市景観、回遊性の向上による人・自転車通行量の増加割合を指標とする。アンケート結果等により、街の活気回復による来街者の増加割合を15%程度と見込む。	43,599	平成16年度	50,000	平成22年度
営業店舗率	%	地区内商店街における営業店舗の割合（（営業店舗数/（全店舗数+空地等の数）））	中心市街地の賑わい創出・商業の活性化による営業店舗率の増加を指標とする。TMO活動支援やイベント開催等により5%程度の営業店舗率の増加（空店舗・空き地の解消）を見込む。	81	平成17年度	85	平成22年度
居住人口	人	都市再生整備計画区域内の居住人口（住民基本台帳）の増減	安全・安心で快適な都心居住環境の向上による居住人口の増減を指標とする。良好な景観形成や安全な歩行空間の確保による居住環境の向上により、中心市街地の人口減少に歯止めをかけ人口動態をプラスに転じさせる。	25,775	平成17年度	26,767	平成22年度
放置自転車台数	台	条例で指定する橋通りの自転車放置禁止区域内の放置自転車台数	安全で快適な歩行者・自転車交通環境整備により、約2割程度の放置自転車の減少を見込む。	1,100	平成16年度	900	平成22年度
まちの魅力度	—	事後のアンケート調査等に基づく、従前と比較した中心市街地の魅力向上への意識	各種整備計画の一体的推進による「中心市街地の魅力度」を従前値を5段階評価の3とし、事後を「魅力度が向上した」4と見込む。	3	平成17年度	4	平成22年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針 1 (都市機能高質化と良好な都市景観形成及び回遊性向上による賑わいの創出)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩道のない道路に質の高い歩道を整備し、来街者の回遊性を高める。 ・市街地再開発事業によりメインストリートの沿道で市民の交流拠点を整備し、中心市街地のにぎわいの再生を図る。 ・まちなかに駐車場・駐輪場を整備し、来街者の利便性を高める。 ・橋公園噴水広場について、災害時の一次避難地として位置づける。 ・商店街の良好な景観形成と魅力アップのため、電線類の地下埋設や質の高い照明施設を整備する。 ・社会実験により中心市街地の活性化に資する既存ストックの有効活用策を探る。 ・まちなかの緑化に取り組む市民団体を支援し、都市緑化・景観の向上・にぎわい再生に繋げる。 ・まちづくりを行う団体や市街地再開発の話合いを進めている組織に専門家を派遣し、活動を支援する。 ・地域住民との協働により景観に関するルールづくりを行い、景観の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・街路事業(基幹事業、関連事業)、道路(電線共同溝) ・市街地再開発事業(基幹事業)、橋通西3丁目地区公共施設整備検討調査(提案事業/宮崎市)、高次都市施設(基幹事業/地域交流センター)、橋通西3丁目(仮称・アートセンター)(提案事業/宮崎市) ・地域生活基盤施設(基幹事業/駐輪場、広場)、市街地再開発事業(基幹事業) ・高質空間形成施設(基幹事業/緑化施設等・電線類地下埋設施設) ・既存ストックの有効活用社会実験、社会実験実施に向けた基礎調査(提案事業/宮崎市) ・中心市街地緑化事業(提案事業/宮崎市) ・まちづくり専門家派遣事業(提案事業/宮崎市) ・景観モデル地区デザインづくり事業(提案事業/宮崎市) ・まちの魅力度調査(提案事業/宮崎市) ・循環バスの社会実験事業(提案事業/宮崎市)
<p>整備方針 2 (ソフト的取り組み推進による商業の活性化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地再開発事業により、商業を中心とした機能の充実を図り、まちの集客力を高める。 ・中心市街地の集客力を高めるために、子供同士や親子が交流する子供向け文化イベントや来街者の健康相談室を開催する(当面は中心市街地の空き店舗を活用し、社会実験として実施)。 ・中心市街地の商業活性化のため、宮崎TMOが行う創業支援、情報発信、空き店舗活用等の活動を支援する。 ・アーケード撤去と電線類の地下埋設により、商店街の環境改善を図り、商業の活性化に繋げる。 ・中心市街地に団塊世代や主婦・高齢者などが集うプラットフォームをつくり、コミュニティービジネスなど新たな事業の創出のための養成講座を行う。 ・県内外からの観光交流人口を増加させるとともに、中心市街地に賑わいを取り戻すため各種のイベントを開催する。 ・空き店舗を減少させ中心商業地の活性化を促すため、中心市街地の土地所有者や建物所有者に対し研修やフォーラムを開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地再開発事業(基幹事業) ・まちななかプレイパーク事業(提案事業/宮崎市) ・橋通よってんプラザ運営事業(提案事業/宮崎市) ・ITを活用した情報提供事業(提案事業/宮崎TMO・Doまんなかモール委員会) ・ガガエイト運営事業(提案事業/宮崎TMO) ・まちの保健室事業(提案事業/宮崎市) ・店舗対策事業(提案事業/宮崎TMO) ・アーケード撤去(関連事業/宮崎駅前商店街) ・高質空間形成施設(基幹事業/電線類地下埋設施設) ・まちなか起業家養成事業(提案事業・関連事業/宮崎市) ・みやざき国際ストリート音楽祭開催事業(提案事業/みやざき国際ストリート音楽祭実行委員会) ・中心市街地イベント事業(提案事業/Doまんなかモール委員会) ・ランドオーナー研修事業(提案事業/宮崎TMO)
<p>整備方針 3 (安全・安心で快適な都心居住環境の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来街者や居住者が安全かつ快適に回遊できるよう、バリアフリーや景観に配慮した高質な歩行空間を整備する。 ・安全で快適な歩行者空間を確保するため、自転車駐車場の整備等により歩道上の放置自転車を減少させる。 ・各種都市機能の充実や良好な景観形成等により、まちの定住魅力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高質空間形成施設(基幹事業/緑化施設等・電線類地下埋設施設) ・高質空間形成施設(基幹事業/歩行支援施設) ・地域生活基盤施設(基幹事業/自転車駐車場) ・まちづくり専門家派遣事業(提案事業/宮崎市) ・アーケード撤去(関連事業/宮崎駅前商店街振興組合)
<p>整備方針 4 (交通環境改善整備による中心市街地の活力を支える交通体系の形成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市の玄関口であり交通結節拠点ともなっているJR宮崎駅のバリアフリー化を行い、高齢者や障害者にとっても利用しやすい中心市街地とする。 ・中心市街地へのアクセス向上のため、道路の整備改善を行うとともに、来街者の利便性向上のため公共駐車場の整備を行う。 ・自動車利用からの転換を図るため、自転車駐車場の整備により自転車の利用環境改善を行う。 ・社会実験により自転車の利用促進策を探る(当面は中心市街地の空き店舗を活用し、社会実験として実施)。 ・民間活力の導入により整備するJR宮崎駅西口の拠点施設の一部にバスセンターを整備し、鉄道・バス・自動車の交通結節機能を高め公共交通機関の利便性向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎駅移動円滑化事業(関連事業/宮崎県、宮崎市、JR九州) ・街路事業(基幹事業、関連事業)、道路事業(基幹事業、関連事業/宮崎市、宮崎県) ・自転車駐車場整備計画策定事業(提案事業/宮崎市) ・地域生活基盤施設(基幹事業/自転車駐車場) ・レンタサイクル事業(提案事業/宮崎市) ・市街地再開発事業(基幹事業) ・宮崎駅西口拠点施設民間資金等活用事業(提案事業/宮崎市) ・(仮称)宮崎駅西口複合交通センター(基幹事業/高次都市施設)

その他

○事業終了後の継続的なまちづくり活動
 当地域では特定非営利活動法人(NPO法人)やTMOを中心に、商店街が主体のまちづくり団体が活動を行っており、これらの団体と協働してまちづくりを進めていく。

○良好な都市景観形成を図るための方策について
 宮崎市では「美しい自然と情景につつまれた九州一の景観都市」を目指しており、中心市街地地区は本市の都市景観の骨格をなす「3つの都市景観軸」のうち、「賑わいのある都市景観を象徴する『市街地景観軸』」と「水と緑の『自然景観軸』」の2つを含む地区として、2箇所を都市景観形成地区(橋公園通り地区、高千穂通り地区)に位置付け、良好な都市景観づくりに努めている。また、現在、都市景観条例や屋外広告物条例などにより良好な景観への誘導・規制を行っているところであるが、景観法の施行に伴い景観計画を策定し、景観向上への取組みを更に強化することとしている。

みやざきしちゆうしんがいち みやざき みやざきし
宮崎市中心市街地地区(宮崎県宮崎市) 整備方針概要図

目標	～多様な都市生活を享受する都心として、また南九州の中核都市として高次都市機能を有した賑わいある中心市街地形成による魅力と潤いのある交流拠点都市の実現～	代表的な指標	自転車・歩行者通行量 (人/12h)	43,599 (平成16年度) → 50,000 (平成22年度)
			営業店舗率 (%)	81 (平成16年度) → 85 (平成22年度)
			居住人口 (人)	25,775 (平成16年度) → 26,767 (平成22年度)

